

コラム ～アメリカでの取組～（庄司香）

(1) アメリカ政治で女性が躍進？

アメリカは民主主義のモデルを自負しているにもかかわらず、先進国の中では女性の政治進出が大きく遅れている国である。女性大統領はまだ生まれていないし、2018年選挙の直前までは列国議会同盟（IPU）の女性議員比率世界ランキング（2018年11月1日）で世界191か国中103位（下院19.6%、上院23.0%）だった。女性議員比率の低さの制度的背景として、小選挙区中心の選挙制度と政党候補者を決める予備選挙制度があり、比例代表制やクオータ制など女性の政治参画推進に資する制度改革の見込みが最も薄い国の一つである。しかし、女性蔑視発言が続いたドナルド・トランプが2016年選挙で大統領に当選すると、奮起した女性たちがこれまでにない規模であらゆる公職選挙に殺到した。2018年選挙では、連邦議会選挙に上下院合計で史上最多の256人の女性が出馬し、女性議員比率は下院23.6%（102人）、上院25%（25人）と、ともに過去最高となり、世界ランキングは78位（2019年1月）へと躍進した。まだ3割にも満たない状況であるが、今後女性の政治進出は拡大し続けるだろうと言われている。

このコラムでは、アメリカで女性議員増加のために政党の外部で様々な市民団体が行っているユニークな試みのうち、女性候補者を訓練するイマージ（Emerge）、資金調達面で支えるウェイ・トゥ・ウィン（Way to Win）、リクルートするクローズ・ザ・ギャップ（Close the Gap）のほか、若年層の女性を政治化するイグナイト（IGNITE）を紹介する。ただし、ここで扱う団体は民主党系若しくは無党派のみである。トランプ政権下では共和党から女性候補者が出馬して勝つことが難しくなっており、共和党側（市民団体含む）では女性の政治参画推進への取組が低迷している。このことは、2018年選挙の結果当選した女性議員のうち下院87%、上院74%が民主党所属であったこと、上下両院合計で民主党は女性議員比率40%をすでに達成しているが、共和党は8%にまで下落したことからも明らかである。

(2) イマージ（Emerge）：女性候補者を訓練する²¹⁹

組織構造

イマージは候補者の訓練に特化した非営利民間団体で、全米のハブとして機能しているイマージ・アメリカ（Emerge America）と、29州にあるイマージ・カリフォルニア（Emerge California）、イマージ・ネバダ（Emerge Nevada）のようなアフィリエイト（提携団体、以下、州イマージと総称する）から構成されている²²⁰。イマージ・アメリカの有給職員はカリフォルニアの本部に10人、ワシントンDCに10人程度いる。各州イマージは有給職員が一人のみ（事務局長）だが、有給スタッフを二人にできるよう奮闘している州もある。いずれも無

²¹⁹ イマージについては、Amanda Renteria（章末ヒアリングリスト③）、Marya Stark（章末ヒアリングリスト⑤）、Martha MaKenna（章末ヒアリングリスト⑥）Danna Lovell氏（章末ヒアリングリスト⑦）のほか、次脚注のウェブサイトに掲載された情報による。

²²⁰ イマージ・アメリカのウェブサイトは以下。ここから、各州イマージのウェブサイトも閲覧することができる。<https://emergeamerica.org/>

給の理事会が団体を率いている。

各州イマージは、イマージ・アメリカと合意書にサインし、後述するイマージとしての原則を守り、候補者訓練のための共通プログラムを州ごとの事情に合わせて調整し活用している。当該州の女性地元有力者を集めた理事会が、フルタイムで有給の事務局長を監督し、独立性をもった運営を行っている。ただし、自州内で十分な財源を確保できるようになるまでイマージ・アメリカから金銭的支援を受けるところも多く、専門家人材の派遣も受ける。各州ウェブページの管理はイマージ・アメリカで一括して行うことで効率化している。

参加者の選抜

州イマージは、州以下のレベルの選挙に初めて挑戦する民主党の女性候補者を「訓練」することに特化して活動している。州イマージの訓練プログラムの特徴は、州ごとに毎年 20～25 人程度が選抜され、参加者は毎月 1 回週末に開催され合計 70 時間以上にわたる一連のトレーニングを半年にわたり一緒に受けていくというクラス制をとっていることである。

どの州でも参加者の選抜を丁寧に行うことを重視している。2016 年トランプ当選に危機感を覚えた女性が大挙して政治進出を目指したため、2018 年選挙に向けてどこの州でも参加希望者が殺到したが、だいたい定員の 2～3 倍は応募がある。興味があつて勉強したいという人は歓迎されず、すでに出馬を決心していて、訓練を受けたら 1～2 年以内に本当に出馬するつもりの人、すでに出馬を宣言している人が優先される。その中でも、自分できちんと勉強している人、過去に選挙キャンペーンを手伝ったことがある人、地元コミュニティで PTA 活動などなんらかの運動作りを経験したことがある人が評価される。ただし、落選者を失望させないために、何が足りなかったのか、何をしてから出直してあげればいいのか、必ず建設的な助言を行う。

トレーニングの内容

訓練の内容は、民主党の全国的な階層的党組織のあり方、州議会の委員会がどう機能しているか、州特有の選挙制度と最適な選挙活動方法といった基礎的知識の修得から、自分の選挙区に合わせた選挙キャンペーン戦略の立案と票読み、戸別訪問の仕方などフィールド・オペレーション、支援者への礼状の書き方、メディアへのメッセージの発し方、演説やコミュニケーション、多様な資金調達の方法、支持表明の取りつけ方などの実践を含み、良質なリーダーシップの体得まで多岐にわたる。

最大の武器はネットワーキング

プログラムで一番重要なのは「ネットワーキング」であるが、これは大物業界人や大口寄付者と知り合うといったよくある人脈作りのようなものではなく、具体的に三つの形をとる。一つめは、同じクラスの仲間と切磋琢磨し、議論を重ね、公私にわたり深く知り合って信頼関係を築き、悩みも苦しみも全て打ち明けられる仲間の輪を作ることである。この同期

生たちの絆は強固で、卒業生はいつまでも「(イマージ・アリゾナ) 2010年クラス」のように年度で自らを呼び、政界に入るまでも入った後もずっと助け合う。

二つめは、講師陣である。毎回のトレーニングには五～六人の講師が来るが、たいていは地元州の政界で活躍しているプロであり、彼女たちとのつながりが自分の選挙対策本部設立の時プロ人材探しの窓口となる。

最後は、毎年広がり続ける卒業生のネットワークを応援団として持つことになり、ここに自分も卒業後組み込まれていくという点である。議員にすでになっている人や挑戦し続けている女性たちが、持続的に成長し続けるネットワークを州内に網の目のように張り巡らせることで政治文化自体が変わっていく。多くの州で、任期途中で辞任する議員が出ると（補欠選挙の実施はコストが高いので）残任期分を務める議員が任命される制度になっているが、この時卒業生のネットワークが活用されて地元のイマージ卒業生に声がかかることが増えている。イマージ卒業生はすでにしっかり訓練されているので、突然任命されて議員になっても、次の選挙の時にきちんと戦える即戦力として評価が高い。

エミリーズ・リスト (EMILY' s List) との対比

州イマージのプログラムに参加するための条件は、民主党系の女性であることのみである。イマージは政策的立場をとらず、訓練内容に政策は入っていない。イマージは特定の選挙における支持を行わないため、卒業生同士が民主党予備選挙を戦う事例がたくさん出ている。イマージは出馬する卒業生に金銭的支援も行わない。これは、民主党系の女性候補者を支援する巨大な非営利組織エミリーズ・リスト (EMILY's List) とは対照的である。米国外にも広く知られるエミリーズ・リストの特徴は、民主党系女性候補者の中でもプロチョイス（人工妊娠中絶への女性の権利を擁護する立場）であることを支援の条件としており、各選挙で支持する候補者を決める（そのため、勝ち馬に乗るとか、党主流派に近いとか、不公平だとか、様々な批判がある）ことだ。特定候補者を特定の選挙で勝たせることに注力するので、個別に訓練もするが限定的であり、支援の軸は絶大な資金力を生かした「カネ」の投入である。エミリーズ・リストは連邦レベルの選挙に主に焦点をあてており、すでに一定の政治的キャリアや知名度を確立している候補者しかその支持を得にくいいため、イマージの側ではその水準に到達できる人材をたくさん育てるという分業が強く意識されている。

実績

イマージは2002年にカリフォルニア州内の活動を視野に複数の有志女性によって立ち上げられ、同州での成功を経て、他州でのアフィリエイト開設を支援するためのイマージ・アメリカが設立された。創設以来、全米で4,000人以上の卒業生が選挙に出馬しており、過去15年間イマージが活動した全ての州で当選した女性州議会議員のうち40%がイマージ卒業生である。どの州でも市町村レベルから女性人材を積み上げ、州議会議員をたくさん輩出し、連邦議会議員の輩出につなげることを目標にしており、その州にイマージが設立されてか

ら 10 年で連邦選挙に初出馬、15 年で初当選する者を出すことが一つの目安になっている。

民主党との関係

イマージ・アメリカも州イマージも、民主党からは完全に独立している。候補者育成は政党が担うべき仕事というイメージが強い国もあるが、イマージ関係者たちはみな、元々（男性ばかりの）党組織が女性候補者育成に関心を示さなかったから女性議員が少なかったのだから、女性たちがそういう党には期待できないと判断し党から独立したイマージのような市民団体を設立したのは当然と考えているようであった。卒業生がよく訓練された人材の宝庫で、民主党に追加的な議席をたくさんもたらしたので、今や民主党もイマージに感謝し高く評価しているという。民主党と緊密に連携もするが、民主党の指名を得られない候補者もイマージは訓練する。

「女子は男子を誘え」

最後に一つ、イマージ・アメリカ事務局長代行のアマンダ・レンテリア氏の印象的なコメントを紹介する。「女性候補者が少ないのは女性にあまり声がかからないからだという人が多いけど、もっと構造的な問題だと思う。女性はリスクを回避するように育てられるから、リスクばかりの政治の世界にしり込みする。男の子は小さい時から女の子をダンスに誘うよう励まされて、断られてもへこたれない訓練を積む。女の子も幼少期から男の子に「デートしよう」と自分から誘って、拒絶から立ち直り学びを得るスキルを身につけるべき。大事なことはリスクを恐れることなく減らすこと。イマージはリスクを低減する。一般に初選挙での当選率は 10~20% くらいだけど、イマージの卒業生は初選挙の勝率が 46% なのだから...悪くないでしょ? (笑)」

(3) ウェイ・トゥ・ウィン (Way to Win) : 持続可能な運動をつくる資金調達²²¹

ウェイ・トゥ・ウィンは、トランプ大統領が生まれた 2016 年選挙の教訓を生かして設立された、カリフォルニア州を拠点とする団体である。現在 10 州で活動しており、有給職員は 12 人、うち 11 人が女性である。選挙期間中にリベラル・民主党側に投入される大口小口の寄付が、ワシントン DC の白人男性を中心としたコンサルタント階級の懐に入って消えていき後に何も残さないことを問題視し、リベラル系寄付者の資金が草の根レベルの持続的な政治運動の育成への投資となるように、カネの流れを変えることを目的としている。

民主党とは直接関わりがなく、支援対象は、これまで政党に軽視されてきた人種・エスニック・性的なマイノリティ、女性、若年層の有権者を魅了し投票率を上げるようなリベラル系候補者とそれを支える草の根の市民団体である。これらの候補者は必ずしも女性に限定されないが、ウェイ・トゥ・ウィンの活動は結果的に女性議員の増加に貢献しており、寄付

²²¹ Nicole Boucher (章末ヒアリングリスト②) による。以下の団体ウェブサイトも参考にした。
<https://waytowin.us/>

者の 95%が女性である。同団体はリベラル系寄付者の既存ネットワークを活用して、民主党のやり方に満足できない層に働きかけ、地元の要望を政治に反映し、実際に生活に変化をもたらすような地元密着型候補者とその支援団体へとつなぐ。寄付額は一人 10 ドル (1,110 円) から 25,000 ドル (277 万 5 千円) まで幅があり、こうした寄付者自身が民主主義のために果たしている役割を実感できるような拠点を提供しようとしている。

2018 年選挙では 2,300 万ドル (約 25 億 5,300 万円) の寄付金を仲介し、民主党支持基盤を拡大すれば連邦議席を共和党から奪取できる見通しがある州を戦略的に選んで、多くの選挙に関与し、うち 85%で勝利した。地元共同体のためになる革新的な変化のビジョンをもつ民主党系・リベラル候補者とそれを支援する持続的な草の根市民運動へ資金を還流させようとする点で、同じ「カネ」の仲介を主な任務としながらもプロチョイス女性候補者であることのみを支援の条件とし、特定の選挙に勝つという短期的効果に集中する民主党系のエミリーズ・リスト (EMILY's List) とは大きく異なっている。

(4) クローズ・ザ・ギャップ (Close the Gap) : 女性に出馬を決意させる²²²

2013 年に創設されたクローズ・ザ・ギャップは、カリフォルニア州議会議員選挙に向けて女性候補者をリクルートすることに特化した唯一の団体である。有給職員は事務局長一人だが、州内全域に無給ボランティアのリクルーターを配置している。民主党系で、中絶への権利、公立学校重視、貧困撲滅の 3 点を支持する革新的な女性を候補者に擁立する。2028 年までに州議会におけるパリテ (男女同数) を達成することを目標としているが、これが可能なのは、同州で州議会議員に生涯計 12 年までという任期制限を課しているからである。現職に勝つのは難しいので、空席見通しの州議会上下院選挙区で新人女性候補者を発掘する。

候補者登録期限が近づく頃には政党は本命候補 (多くは男性) を決めてしまっているので、クローズ・ザ・ギャップはまだ誰も次の選挙のことなど考えていないような時期 (早ければ選挙の 2 年前) から候補者発掘を始める。選挙区の特色に合わせて企業、労組、NGO、民主党などあらゆる地元団体から推薦を募り、勝てそうな人材を厳選して三人以下に絞り込む。選ばれた潜在的候補者は必ずしも政界入りに前向きでなかったり、金銭面や家族のことでためらったりする場合もあるが、リクルーターは一對一でじっくり説得し、半年から 1 年かけて選挙と政治の内部情報を提供し、州都の人脈や女性議員に紹介しながら、本人の出馬準備ができているか、選挙区が求める候補者か、勝てそうか、といった分析を通じて出馬の決意を固めさせる。良質な女性候補者を重要な選挙区で確実に一人は出馬させることが目的なので、候補者が出馬を決意した時点でクローズ・ザ・ギャップの仕事は終わり、訓練や資金提供などは行わない。有能でも女性には声がかかりにくく、それゆえに女性政治家が少ないという、よく知られているアメリカ政治の「穴」を塞ぐニッチな活動に専念する非常にユ

²²² Sussanah Delano (章末ヒアリングリスト④) による。以下の団体ウェブサイトも参考にした。
<https://closethegapca.org/>

ニークな団体である。

(5) イグナイト (IGNITE) : 政治を最初の職業に²²³

イグナイトは、アメリカ政治に女性が少ない根本的な理由として、男性と比べて幼少期から政治参画を奨励されない点に着目し、保育園から大学まで女子を対象に幅広い公民教育を展開する無党派の団体である。2010年に創設され、15人の有給職員の下、現在30州に事務所を置いて、毎年1万人の女子を訓練している。放課後に年間50時間のプログラムを提供しているほか、毎月大学生向けの合宿も実施している。政党とはつながりがなく、参加する女子は民主党支持が多いが、共和党系も25%を占める。政治的訓練を受ける機会の少ない公立校を重点的に対象としているため、参加者の75%はマイノリティである。参加費は無料で、財源は財団の助成金や、5ドル(約555円)から10万ドル(約1,110万円)までの個人寄付である。

政治的キャリアには上っていくべき階段があり、このレールに乗ることは「パイプライン」に入ると表現されるが、イグナイトはこのパイプラインに多くの女性を人生の早い段階で送り込むことを使命としている。女性連邦議員の半数は州議会議員出身であり、トップレベルで女性の政治参画を推進するためには、末端で多くの女性をパイプラインに参入させ、州以下のレベルで女性の人材プールを充実させなければならない。女性の場合、働き、子育てをする中で社会的問題への関心を深め政治参画の重要性を痛感することが多いが、政治的キャリアには順番に踏むべきステップがあり、参入が遅ければ(その多くは男性である)キャリア政治家には敵わない。イグナイトは、より多くの女性が早くに政治的キャリアを開始する必要があるとの立場から、大学を卒業して最初の職業を「政治家」とする女性が増えるよう、修了生のネットワークを通じて、選挙への出馬だけでなく、政策アナリストや選挙参謀など様々な政治産業への就職も支援している。

²²³ Anne Moses (章末ヒアリングリスト①)による。以下の団体ウェブサイトも参考にした。
<https://www.ignitenational.org/>

章末参考資料 アメリカ ヒアリング調査概要

1. 日程・訪問地・調査者

日程	訪問地	調査者
2019年10月31日(木)から11月1日(金)(2日間)	カリフォルニア州	学習院大学法学部政治学科教授 庄司香
2019年10月17日(木)、10月31日(金)(2日間)	日本及びアメリカでビデオによるインタビュー	学習院大学法学部政治学科教授 庄司香

2. ヒアリングリスト(敬称略)

	機関・団体	役職	面談者	面談日	主要ヒアリング項目
直接訪問によるヒアリング調査を行った市民団体					
①	イグナイト IGNITE	理事長及び 創始者	Anne Moses	10月31日	<ul style="list-style-type: none"> 組織概要 女性の政治参加促進のための取組(内容、背景・経緯、効果、今後の取組)
②	ウェイ・トゥ・ウィン Way to Win	副理事長	Nicole Boucher	10月31日	
③	イマージ・アメリカ Emerge America	理事長代行	Amanda Renteria	11月1日	
④	クローズ・ザ・ギャップ Close the Gap	事務局長	Sussanah Delano	11月1日	
ビデオでのヒアリング調査を行った市民団体					
⑤	イマージ・アメリカ Emerge America	諮問委員会 メンバー及び 元(初代) 事務局長	Marya Stark	10月17日 ²²⁴ (日本からビデオインタビュー)	<ul style="list-style-type: none"> 組織概要 女性の政治参加促進のための取組(内容、背景・経緯、効果、今後の取組)
⑥	イマージ・メリーランド Emerge Maryland	初代理事長	Martha McKenna	10月17日 ²²⁵ (日本からビデオインタビュー)	
⑦	イマージ・ネヴァダ Emerge Nevada	事務局長	Donna Lovell	10月31日	

²²⁴ 同インタビューには庄司香学習院大学教授と共に百生詩緒子も参加。

²²⁵ 同インタビューには庄司香学習院大学教授と共に百生詩緒子も参加。